

こんな活動です

三崎の豊かな自然・人・結びつきを生かして ～学校・家庭・地域の強い絆づくり～

石川県珠洲市	●活動名	●関係する学校名
	三崎地区学校運営合同協議会	珠洲市立みさき小学校 珠洲市立三崎中学校

協働活動開始年度	平成 31 年度	学校運営協議会	指定・設置日	令和2年7月3日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	放課後子供教室		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数			2人
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無	ICT機器活用		無
参考URL	https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/misake/(みさき小) https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/misaki/(三崎中)					



●連絡先	珠洲市教育委員会事務局	☎ 0768-82-7826
------	-------------	----------------

三崎地区には、小学校1校と中学校1校があり、学校運営協議会の発足前から「学校」「地域」「家庭」が連携した取り組みや長年引き継がれている地域学校行事が活発に行われている。しかし、近年は、少子高齢化に伴い、児童生徒数の減少や住民のつながりの希薄化など地域社会を取り巻く環境が厳しい状況に置かれている。こうした中、地域とともにある学校づくりをより強固に推進していくために、平成31年度から地区住民に呼びかけて、三崎地区の教育について意見を交換する「熟議」を開催してきた。「熟議」で地域住民の意見を参考にしながら、学校運営協議会の基本方針を作成し、令和2年度に、みさき小学校、三崎中学校各々に学校運営協議会を設置した。また、両校の学校運営協議会の連携を図るとともに、小中連携教育をより一層推進するため、三崎地区学校運営合同協議会を設置し、「学校」「地域」「家庭」の強い絆づくりに努めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

小学校では、各学年で魅力的なふるさと学習を行っている。代表的な取り組みは、郷土民話さんによる語り伝承教室。三崎町に残る文化財産であるが、知らない地域住民が増えている。そこで、毎年、公民館とさんによる保存会が連携して、4年生を対象に教室を実施している。教室で作成した紙芝居は、文化祭、老人会など様々な地域行事で児童が発表しており、地域への学びの還元にも繋がっている。中学校では、珠洲市がSDGs未来都市に選定されたことを契機に、持続可能な三崎地区の将来について考える学習を行っている。昨年度は、三崎地区の各集落の祭礼について聞き取り調査を行い、継続困難であるという課題と向き合った。生徒は、地域づくりの当事者の一人として、この課題を真剣に考えて研究し、文化祭において、研究成果の発表と課題解決のための提言を行った。小学校では地域を知り学ぶこと、中学校では地域づくりに参画することを目標に取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

以前より、地元公民館をはじめ、町内会や各種団体が連携を密にして、学校や地域における課題やニーズを捉えながら活動を展開している。平成31年度には、活動のみならず目的を共有化するために、コミュニティ・スクールの専門家を招聘して「熟議」を3回行った。子どもたちにどんな大人になってほしいのか、互いの願いや考えを率直に話し合うことで、目標の共有化や役割意識の醸成を図った。今後も「熟議」は毎年開催する予定である。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会において、地域学校協働活動の報告や検証を行う。また、月一回、地域全戸配布の「学校だより」のほか、コミュニティ・スクールに関する情報を地域住民に周知し、コミュニティ・スクールへの理解や参画の意識醸成を図るために、「コミュニティ・スクールだより」を年数回発行している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

豊かな里山里海のフィールドや歴史ある伝統文化など地域の特色を活かした活動が、地域の方の工夫により効果的に行われ、子どもたちの地域への愛着心と地域づくりの担い手意識を高めることができた。平成31年度からは、小学校の空き教室を活用して放課後子ども教室を開設し、多くの地域住民や地域団体の参画を得ながら、子どもたちに多様な体験プログラムを実施している。「熟議」の開催に加え、放課後子ども教室の開設により、地域で子どもたちを育てる意識の高揚をより一層図ることができた。

● その他



「熟議」で三崎地区の教育に地域住民の活発な意見交換を行う



郷土民話さんによる語り伝承教室（紙芝居）を地域住民の児童に披露する